

## 題材カード 及び 今年度研究のまとめ

1. 学年 第1学年

2. 「学習の方向性」から題材へ

造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む「学習の方向性」

- 感じたことや想像したことから表したいことを見付け、思いのままに表す。  
 ○活動したことや表現したものの面白さや楽しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。  
 【A表現(1)イ(2)イ】 【B鑑賞(1)ア】〔共通事項〕

題材名

わくわくタウンをつくろう！！

～いろいろな かたち・いろのはこをあつめて わくわくタウンをつくろう～

「絵や立体、工作」、「鑑賞」

題材目標

- 箱を積んだり並べたりして思い付いたものを表すことを通して、いろいろな形や色などに気付き、はさみ、テープ、接着剤などに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表し方を工夫して表すようにする。
- 色々な形や色の箱を積んだり並べたりして、感じたことや想像したことから、表したいものを見付け、どのように表すかについて考えるようにするとともに、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさや、表し方について、感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げるようにする。
- いろいろな箱の形や色から思い付いたものを表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などで楽しく生活を創造しようとする態度を養うようにする。

題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>箱を積んだり並べたりして思い付いたものを表すことを通して、いろいろな形や色などに気付いている。</li> <li>はさみ、テープ、接着剤などに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表し方を工夫して表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>色々な形色の箱を積んだり並べたりして、感じたことや想像したことから、表したいものを見付け、どのように表すかについて考えている。</li> <li>自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさや、表し方について、感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな箱の形や色から思い付いたものを表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などで楽しく生活を創造しようとしている。</li> </ul>

### 3. テーマに迫るために

研究主題
感性豊かに生きる力をはぐくむ図画工作科学習の創造 ～感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて～
部会テーマ
思いのままに つくることを楽しむ子どもの姿を目指して

#### ○出あいの工夫

- ・新学習指導要領では、「共通事項」の内容が知識・技能や、思考力・判断力・表現力の指導内容に含まれている。そのため、これまでよりも、各題材における材料や用具の形や色の特徴を捉えることが大切であると考えている。

本題材は、空き箱の形や色、組み合わせから想像を広げ、わくわくタウンを表す。空き箱の形や色の特徴を十分に感じることができるよう、材料を子どもたちが自分で集めるようにする。また、材料の形や色に着目して集めることができるように、学年だよりを通して、保護者に活動の趣旨や集めるときのポイントなどを伝えるようにする。また、材料を集めることを児童に伝える際には、教師が用意した箱を見せ、「これはどんな形?」「どんな色?」「組み合わせると何に見える?」と質問し、材料を集める際の視点を子どもと共有できるようにする。

- ・表現と鑑賞を関連させることで、子どもの思考力・判断力・表現力がより豊かに働くと考える。そこで、金属などの廃材を組み合わせていきものを表現している富田菜摘さんの作品を鑑賞する。富田さんの作品は、新しい教科書の3・4年上にも掲載されている。扇風機を胴体にした恐竜や、空き缶を胴体とした魚などがあるが、まずはそれらのいきものの写真を遠くから見せ、「これは何でできていると思う?」と問いかける。また、作品のアップの写真を見せ、「この材料がどんな生き物に変身していると思う?」と問う。このような鑑賞活動をすることによって、材料の形や色からいきものを想像する力が豊かに働くとともに、表現への意欲が高まると考える。また、材料の形や色をじっくりと見る鑑賞を通して、形や色の特徴を捉えることができるようにしたい。

#### ○場の設定の工夫

- ・教師が集めた材料を、形や色ごとに分けて、材料置き場に置くようにする。形や色の視点をもって、材料を集めることができるようにする。

#### ○共感的支援の工夫

- ・形や色の視点を子どもと共有して、対話し価値付けするようにする。

#### ○小中一貫の視点

- ・3、4年生では、布やプラスチック容器など、多様な材料を組み合わせる立体をつくる活動がある。本題材で材料集めの面白さを十分に味わうとともに、自分で材料を集めることによって、発想が豊かに広がることを理解し、3、4年生の活動につなげるようにする。
- ・本題材で、紙同士の接着方法を理解することで、多様な材料を組み合わせるための基礎的な技能を身に付けることができるようにする。

4. 指導と評価の計画 時間5時間

- ア 鑑賞をする。(0・5時間)    イ 空き箱をつかって遊ぶ。(0・5時間)  
 ウ 空き箱を組み合わせてつくる。(3・5時間)    エ 鑑賞する。(0・5時間)

	子どもの学習活動	評価規準 【評価方法】	教師の指導	知・技	思・判・表	主体的
1	<p>ア 色々な形や色を組み合わせてできたいきものを鑑賞しよう。</p> <p>○富田さんの作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アップの写真から何のいきものを表しているか考える。</li> <li>・ルーズの写真から、何をつかってつくっているか考える。</li> </ul>		<p>○ラミネートしたものを黒板に掲示する。</p> <p>○いきものに限らず、様々な立体写真を見せる。</p>	●	●	●
	<p>イ 空き箱を組み合わせて遊ぼう。</p> <p>○自分が集めた空き箱を組み合わせて、見立て遊びをする。(ここでは接着はしない。)</p>	<p><b>知・技</b></p> <p>箱を積んだり並べたりして思い付いたものを表すことを通して、いろいろな形や色などに気付いている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>	<p>○形や色の違いに着目できるような声掛けをする。</p>			
2 3 4	<p>ウ 空き箱を組み合わせてつくる。</p> <p>○空き箱を組み合わせた形からのイメージをもとにつくる。</p>	<p><b>思・判・表</b></p> <p>色々な形色の箱を積んだり並べたりして、感じたことや想像したことから、表したいものを見付け、どのように表すかについて考えている。</p> <p>【つくりつつあるもの・対話】</p> <p><b>知・技</b></p> <p>はさみ、テープ、接着剤などに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表し方を工夫して表している。</p> <p>【観察・記録写真】</p>	<p>○接着方法をはじめに指導する。</p> <p>○形や色の特徴に合わせて声掛けをする。</p>	●	●	●
	<p>エ 作品の鑑賞をする。</p> <p>○友達が作った作品の鑑賞をする。</p>	<p><b>思・判・表</b></p> <p>自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさや、表し方について、感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げている。【ワークシート・対話】</p> <p><b>主体的</b></p> <p>楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。【観察、対話】</p>	<p>○形や色に着目して鑑賞することができるように声掛けをする。</p>			

5. 準備

児童：はさみ、セロハンテープ、のり、身辺材

教師：両面テープ、粘着テープ、化学接着剤、木工用接着剤、身辺材

6. 場の設定 教室

※活動は、全員前向きで行う。

※基本は、個人が持ってきた材料・用具を扱う。

※活動前には手洗いをを行う。できれば消毒も行っておく。共同の用具を扱った後は、アルコール消毒を行う。

## 令和2年度の研究で学んだこと【低学年部】

< 図画工作科で働かせている資質・能力とは（9月学習会の内容から） >

変化が激しく予測困難な現代社会では、一人一人が未来の担い手となるために自分自身に問いかけ、試行錯誤しながら課題の解決方法を探し、他者と協働して新しい意味や価値を創造することが求められる。

図画工作科では、「同様なことを形や色などを基に、自分なりのイメージをもち、体全身の感覚を働かせ対象に触れ、感じ取ったことをもとに表したいことを見付け、連続した活動の中で、自分にとって意味や価値あるものをつくりだす。」これらを繰り返しながら、子どもたちは資質・能力を働かせている。子どもたちがもつ創造力をより豊かなものにするために、資質・能を育むカリキュラム・マネジメントが今後一層求められる。

< これからの授業づくりのポイント（9月学習会の内容から） >

新学習指導要領が令和2年度より全面実施となり、これまでの4観点から育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って再整理された。

9月の学習会で繰り返し出ていたキーワードは、「活動の過程を大切にする」。子どもたちの活動の過程を大切にするすることで、子どもたちの思いに近づくことができる。教師が指導する上で大切にしてほしい3つのことを示された。

### ① 想像力を育む

「かんじること」「ためすこと」「つくりだすこと」を積み重ねながら資質・能力を育む。

### ② その子の考え方が見える

「何を感じ、何を試し、どんな意味を込めたのか」を見とる。

### ③ その子の考えに気付ける

自分の決めたゴールへ向かう「その子」の考えた過程を大切にする。

この3つは、本研究テーマの副題である「感じる・つくる・考える」と重なるところでもあり、自らが創造することの楽しさを十分に味わっている学びの姿であるといえる。そして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点としても重要である。



## ○10月 実技研修会「うつしたかたちから～スタンプを浮かべてきたかたちから思いついたことを表そう～」

- ・はじめは何も考えずにスタンプを楽しみ、活動しながら表したいことが見つかっていく材であるので、表したいことがどのタイミングでどのように見つかるか考えることが大切。
- ・「身近で扱いやすい材料や用具に十分慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す」ことができるように、学年にあった材料や用具などを考える。スタンプとなる材料も大きすぎず、低学年の手に収まる大きさにされていたのがよかった。



## ○11月 実践提案「ごちそうパーティーをはじめよう！～レストランへようこそ～」

- ・題材はカリキュラムマネジメントをして年間計画を立て、教師の好みではなく、子どもに付けさせたい資質・能力は何か考え、それに合わせて題材を選ぶことが大切。
- ・コロナ禍では感染症予防を考えながら活動場所、展示場所の工夫が必要になってくる。また、片付けも時間差をつけながら密にならないようにするとよい。
- ・粘土の種類によって硬さが異なるため、導入が変わってくる。丸める、たたく、のばす、つまかさねる、ちぎるなど、基本的な技能を授業の最初に行い、映像を見せながら行うとよかったとの意見もあった。



## ○12月 第二次教育研究大会に向けた話し合い

- ・日文の教科書では、「はこでつくったよ」とあるように、いきものに限定せず、わくわくタウンのようなものにして、生物、建物、乗り物などに思いを広げられるようにするとよいのではないかと。
- ・「いろ、かたち」は〔共通事項〕にもあるように、外せない。
- ・まずは持ってきた箱を使って、たくさん遊ばせる。材料の組み合わせから発想することが大切。
- ・低学年は待てないので、すぐにくっつく接着の方法がよい。

## 本題材のデザイン(カリマネ)に生かしたところ

- ・材料の形や色、特徴を十分に捉えるために箱で遊ぶ時間を十分に確保する。
- ・教師が、子どもの形や色に着目した言葉を分類・整理し、掲示するなどして視覚化する。
- ・造形的な見方・考え方を子どもがもつことができるようにするために、形や色の視点での共感的な声掛けをする。
- ・〔共通事項〕が評価の観点の内容に含まれていることから、これまで以上に大切にす。
- ・表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成するために、導入で美術作品の鑑賞の時間を設け、形や色の視点をもてるようにする。
- ・題材名を工夫する。「わくわくタウン」とする。



本題材については、来年度授業実践を行い、研究を深めていくこととする。